石神井南中学校
学校だより

平成２９年度　　第３号
発行日　６月２６日(月)
練馬区立石神井南中学校
校長　　児　島　泰　彦

６月はヘレン・ケラーが生まれた月です。「奇跡の人」として知られ、目・耳・口に障害を持ちながら、家庭教師のアン・サリバン先生の指導により、大学を卒業し、福祉活動に生涯をかけて取り組んだ人物です。映画やお芝居にもなり、数々の名優たちがその役を演じていました。中でも心を閉ざしたヘレンにサリバン先生が手に水をかけて指文字でウォーターと教えるシーンが印象に残っています。我々教師も生徒一人一人にとってのサリバン先生になりたいと思っています。生徒と教師がお互いを信頼し、学ぶことができる学校。そのような学校を作っていきたいと思っています。

＜道徳朝礼＞

皆さんは一週間前の日曜日が何の日だったか知っていますか。父の日ですね。６月の第三日曜日が毎年父の日となっています。同じように、５月の第二日曜日が母の日となっています。

ある年に調査機関が、「母の日に何をしてもらいたいか」という調査をしたところ、１位は「いつもありがとうと言ってもらうだけで良い」ということでした。２位は「一緒に食事をする」、３位は「手料理を作ってもらう」、４位は「家族と一緒に家でゆっくり過ごす」という答えが返ってきたそうです。

母の日にはよくカーネーションを送るというように、プレゼントを渡すことがありますが、このアンケート結果からは物をもらうよりも日頃の感謝の気持ちを伝えることや家族の団らんを大切にしたい気持ちが伝わってきます。皆さんは日頃の自分の生活を振り返ってみて、家の人が毎日食事を作ってくれることに対して「ありがとう」と言っていますか。洗濯をしてもらっていることに「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉で伝えていますか。

実は先生も母親に対してあまり言ったことがありませんでした。自分が結婚してからも、普段は妻が食事の準備も洗濯も子供の面倒もほとんどやってくれていました。しかし、時々ですが私が食事を用意する機会があったりすると、毎日当たり前のようにしてもらっていることでも、自分でやってみるとその大変さが分かったりするものです。それからは、自分が協力できることはやるようにしています。皆さんも家の仕事で、もし手伝える場面があれば、積極的に行ってみてください。ただ、中学生の皆さんも忙しい毎日を送っていることと思います。それならば、手伝うことができなくても、「ありがとう」という感謝の言葉は伝えることができると思います。毎日の生活の中で、お互いに感謝の気持ちをしっかり伝えられる関係であったらいいですね。

今月はいじめについてのアンケートを実施しました。その結果、１年生で２件、２年生で２件、３年生で１件の生徒からの訴えがありました。その多くが悪口やからかいでした。やられている本人にとってはとても辛いことなのにやっている方は軽い気持ちでしか考えていないことがうかがえます。

「自分がされていやなことはしない。」「自分が言われていやなことは言わない。」「感謝の気持ちを言葉に出して伝える。」この気持ちを常に考えて行動してください。

〈運動会を終えて〉　　体育科　　山本　諒

青空が広がる中、「覚悟という名の翼を広げ　目指せ５５！　勝利へ翔け」のスローガンのもと、生徒たちは事前の練習・係活動・当日の競技など、大いに活躍してくれました。今年度は下石神井小学校の運動会も本校で行われ小学生と授業を交互に行うこともありました。限られた時間の中での練習となりましたが、そのような中でも生徒たちが時間を有効に使い、本番に向け一生懸命取り組む姿を多く見ることができました。当日は各クラスの団結がぶつかり合い、勝利へ一心不乱に戦っていました。１年生の台風の目では、急いでコーンを回るため、外側の生徒が飛ばされないように必死に走るシーンが印象に残りました。２年生の大縄飛びでは、最初は２～３回跳ぶと止まっていましたが、回を重ねて練習をして５０回以上続けて跳ぶことができました。そして３年生の大ムカデは転んでも転んでも立ち上がり、必死にタスキを繋ごうとする姿に感動を覚えた方も少なくなかったのではないでしょうか。練習から真剣に取り組むからこそ生まれる気持ちが強く伝わりました。保護者の方々、地域の皆様には練習期間から当日に至るまで、ご理解ご協力をいただきありがとうございました。そして生徒の皆さん、最後まで諦めない姿勢がとても素敵でした。感動をありがとう。

１００m走

山あり谷あり競走

全員リレー

地域児童招待競走

３人４脚

ソーラン節